

「大阪市立デザイン教育研究所の今後のあり方について」（概要版）

1. これまでの経緯

- 平成 22 年度 事業仕分け結果：「民営化」
- 平成 25 年度～ 入学者の募集停止を発表するも、在校生や工芸高校在籍生徒等に対して、丁寧な対応を求める市会質疑等を踏まえ、停止時期を繰延べ
- 平成 26 年 7 月 教育委員会会議での決定事項

- ・平成 29 年度以降の入学者募集を停止し、平成 30 年度以降、本市直営による同研究所の運営は行わない
- ・同研究所がこれまで培ってきた教育内容の継承などの観点から、本市直営以外の運営による同研究所に代わる教育機関の可否を検討し、平成 27 年度中に結論を得る

2. デザイン教育研究所の概要と課題

- 概要
 - ・工芸高等学校の継続教育機関として敷地内に併設された比較的小規模な2年制の専修学校(1 学年45人)
 - ・企業等連携によるプロジェクト学習を通して、デザイン業界への高い就職率を維持する等、産業デザイン人材の育成に貢献
- 課題
 - ・工芸高校生の大学進学希望者の増加や、近畿圏の私立デザイン系の大学等の増加(設立時と比べて約 2 倍)など、取り巻く状況が大きく変化
 - ・歳出の削減や、授業料の引き上げ(公立短期大学並み)を行うが、歳入<歳出(差 年間約 5,100 万円)
 - ・平成 26 年度以降、定員割れが続く(H26 年度 75 人、H27 年度 75 人、H28 年度 66 人(定員 90 人))

3. マーケットサウンディングでの意見

(平成 27 年2月～ 6法人からサウンディングを実施。そのうち現在、参入意欲を示しているのは3法人)

- 教育内容
 - ・産業デザインに特化した現在の教育内容を継承したいという意見のほか、法人によっては既存の教育内容に拘らない立場から、経営安定を重視し、アニメ・グッズデザイン分野なども実施してはどうかとの意見も出された
- 移行方法
 - ・1年生を受託法人、2年生を本市が運営し、移行期間の 1 年間を同じ建物内で共存する形の当初移行方針は授業料等が異なることによって、学生に不公平感・区別感が生じる恐れがあり、学校運営上難しい
 - ・教育内容の継続性、経営の安定性の観点から、移管する年度に設置者を変更し、2 年生を受託法人に転籍させる方法がベター
- 収支改善:授業料の増額(39 万円→60 万円)、学年定員の増員(45 名→60～80 名)が必要 など
- 土地建物:使用貸借(無償)を希望

○移管前後の一定期間の公的支援が不可欠

- ・平成 29 年度入学者(市募集)が2年生進級時(平成 30 年度)に民に転籍する際の授業料差額を市負担希望
- ・デザイン教育研究所の教育内容の継承の観点から、教員の転籍を希望
- ・移管前年度における法人準備職員の人件費、転籍教員の市人件費と法人人件費との差額、学生募集広告費など、移管前後の一定期間における市負担を希望
- ・建物を工芸高等学校と共有しているため、大・中規模改修費は市負担を希望

4. 学校法人・有識者等の意見を踏まえた、あり方検討内容

(1)教育内容の継承について

強みを生かすため、企業プロジェクトなどの実学を重視し、デザイン系企業へ多く就職させるなど地域に貢献してきた実績を今後も継承

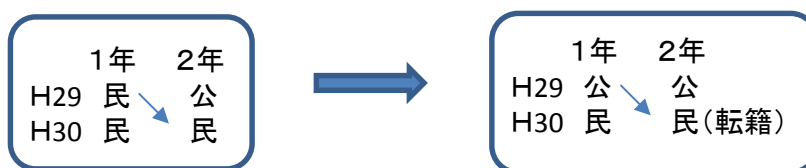
(2)民営化の移行方法について

- ・当初の方針(平成 29 年度公民併存)は、学生間における区別感・不公平感の発生とともに、他学年合同授業の実施や責任分担方法が難しいことから、移行時期を変更すべき
- ・民間が運営を継承する場合には、学生募集に係る周知等、事前の準備や周知に十分な期間が必要であり、途中で民間への転籍となることを十分に周知すべき
- ・学生および事業者への配慮を踏まえ、教育内容の継続性、入学者募集、経営面等の観点から、

⇒ 平成 29 年度に入学者は市で募集し、平成 30 年度(2 年生進級時)に民間へ転籍させる方法をめざす

当初の方針(H29は公民併存)

あり方検討案(H29年度生は民に転籍)



(3)収支バランスを見るに通常の民営化条件では大変厳しく、公が運営しないなら、賃料免除や一定の公的支援が不可欠

- ・工芸高校施設と共有する性質上、将来的に敷地権等の設定による制約を回避する必要があることや、デザイン教育研究所の教育内容の継承を公募条件とすることから、土地建物は使用貸借(無償)扱いが望ましい
- ・転籍となる学生との法的リスクを回避するために、当該学生の支援の観点から、市で募集した平成 29 年度学生が平成 30 年度(民営化)の時点で生じる、授業料等の生徒負担額の増額への公的支援や、例えば教員が転籍した場合の本市と受託法人との基準人件費の差額負担など、教育内容の保証を担保する方策の検討が必要